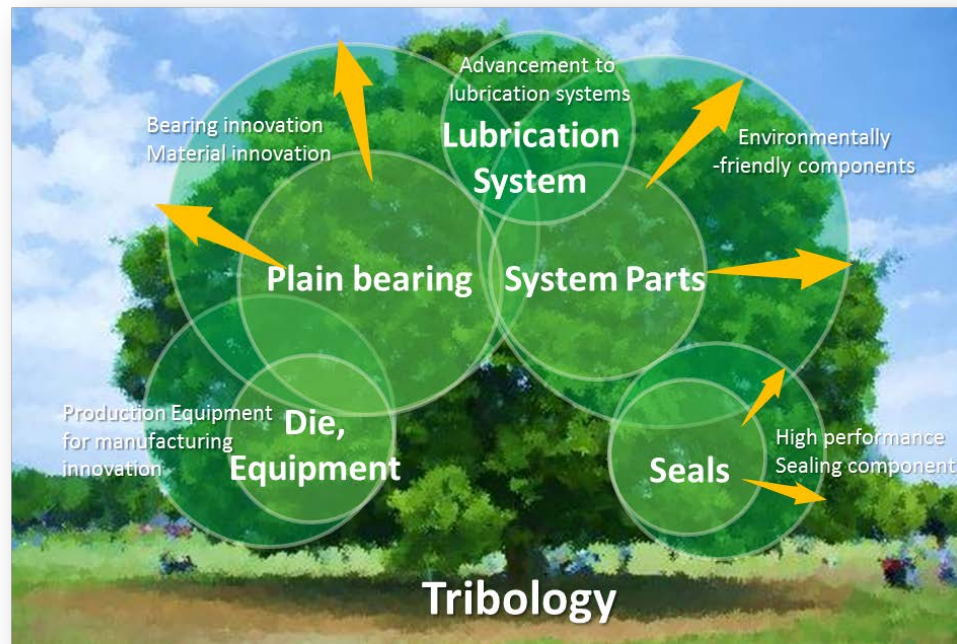


2016年3月期 決算説明会

2016年5月27日



将来見通しに関する注意事項

このプレゼンテーション資料に記載されている当社業績見通しは、現時点で把握している情報に基づき、当社が判断したものです。実際の業績は、今後の経済動向、市場の需要、為替レートの変動、税制や諸制度など、様々なリスクや不確定要素に左右されます。従いまして、実際の当社業績は見通しと異なる結果になる場合があることを、あらかじめご了承ください。

投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。

当プレゼンテーション資料に掲載された情報に全面的に依拠して投資判断を下されることはお控えくださいますようお願いいたします。

目次

1. 中期経営計画(2013-15)の振り返り
2. 2016年3月期 実績
3. 2017年3月期 予測
4. 将来への取り組み
(VISION2020と新中期経営計画)

動画にてご説明

目次

1. 中期経営計画(2013-15)の振り返り

2. 2016年3月期 実績

3. 2017年3月期 予測

4. 将来への取り組み

(VISION2020と新中期経営計画)

2016年3月期 決算の概況 <連結>

単位:百万円

| | 2016年3月期 | 2015年3月期 | 増減値 | 2016年3月期 | 増減値 |
|-------------------------|---------------------|---------------------|------------------|---------------------|------------------|
| | 実績① | 実績② | ①－② | 10月時点予測 修正公表値③ | ①－③ |
| 売上高 | 107,288 | 98,221 | 9,066 | 108,000 | △ 712 |
| 営業利益 | 6,629 | 4,675 | 1,954 | 6,500 | 129 |
| 経常利益 | 6,297 | 4,973 | 1,323 | 6,500 | △ 203 |
| 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | ※1,2 3,772 | 3,194 | 577 | 3,100 | 672 |
| 為替レート | 119円/ドル 132円/ユーロ | 110円/ドル 138円/ユーロ | 9円/ドル △6円/ユーロ | 120円/ドル 132円/ユーロ | △1円/ドル 0円/ユーロ |
| トヨタ 世界生産台数 | 893万台 | 894万台 | △1万台 | 900万台 | △7万台 |

※1 上期特別損失:中国子会社(WBM)の「のれん」減損 325百万円

※2 下期特別損失:愛鉄連厚生年金基金の解散費用 529百万円

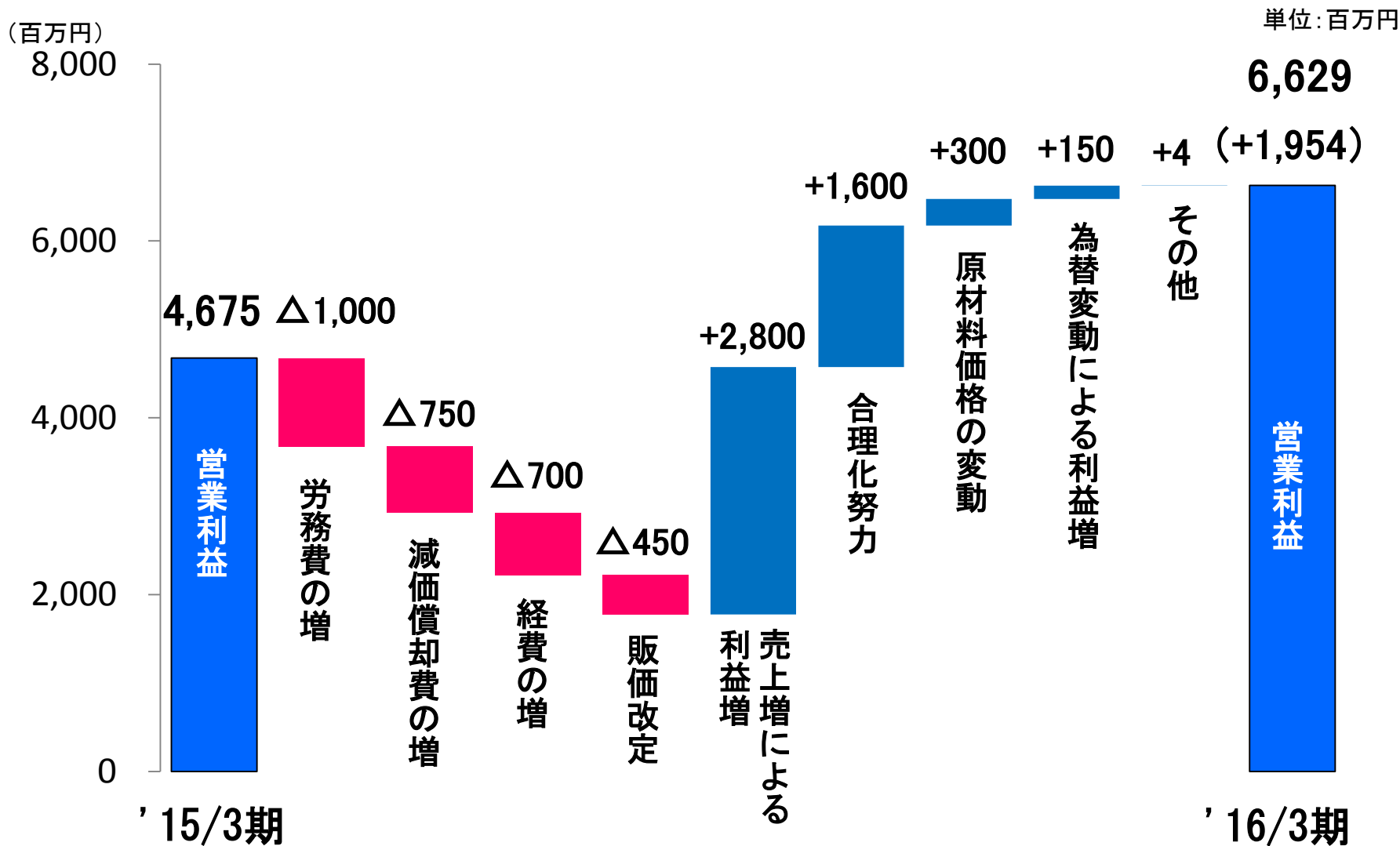
2016年3月期 決算概況の推移 <連結>

単位:百万円



営業利益・経常利益・当期利益 過去最高

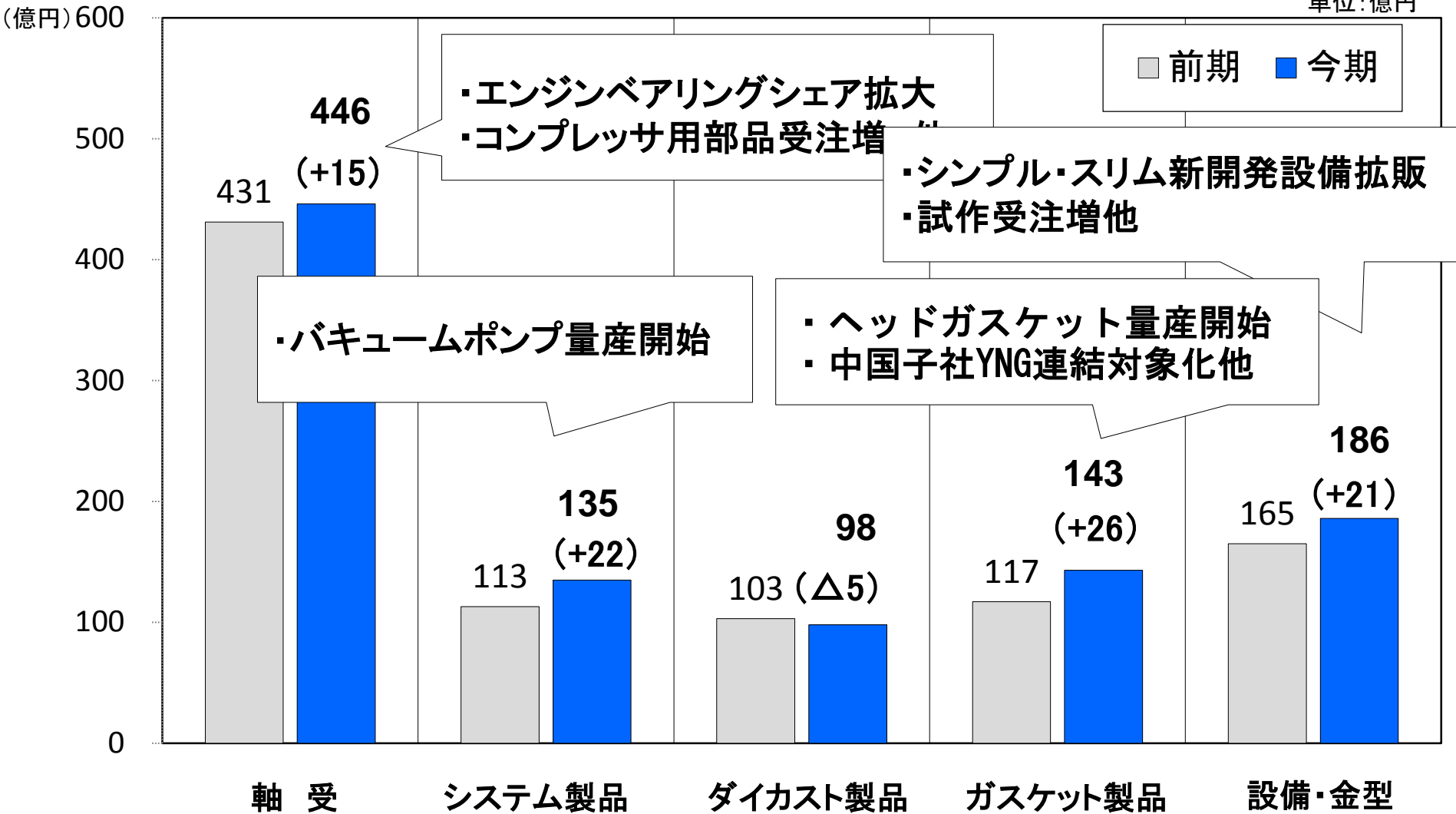
営業利益増減要因(前年同期比) <連結>



営業利益 1,954百万円の増

2016年3月期 製品別売上高 <連結>

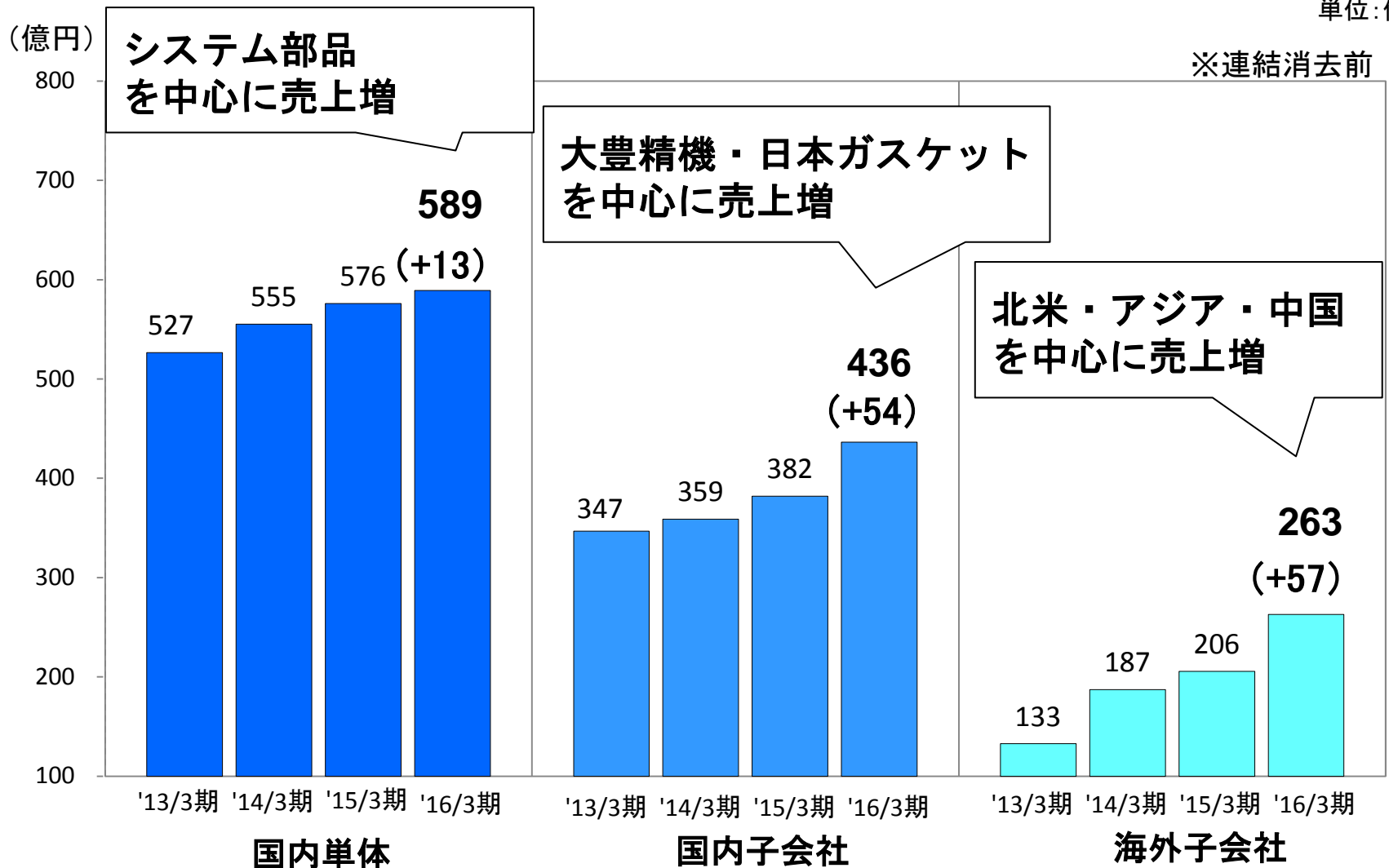
単位: 億円



システム製品・ガスケット製品中心に売上増

国内外別売上高実績（連結消去前）

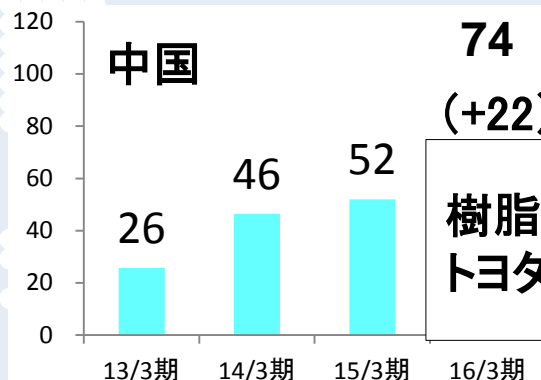
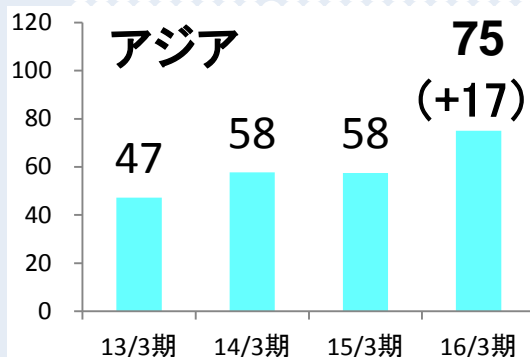
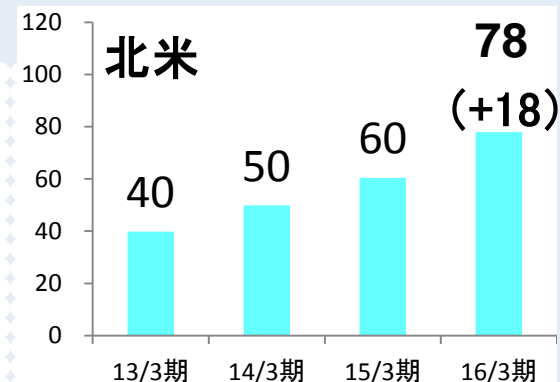
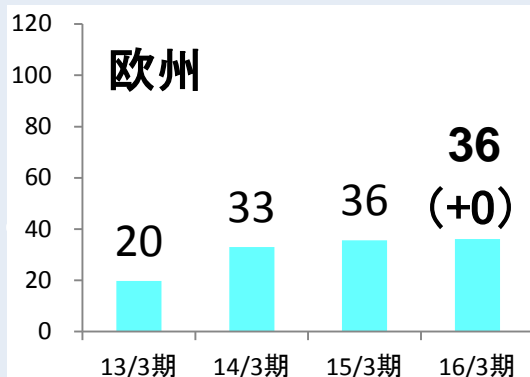
単位：億円



単体、国内子会社、海外子会社全てで売上増

2016年3月期 海外地域別売上高（連結消去前）

単位：億円



樹脂コーティング設備導入・量産
トヨタ・GM・ホンダ受注増

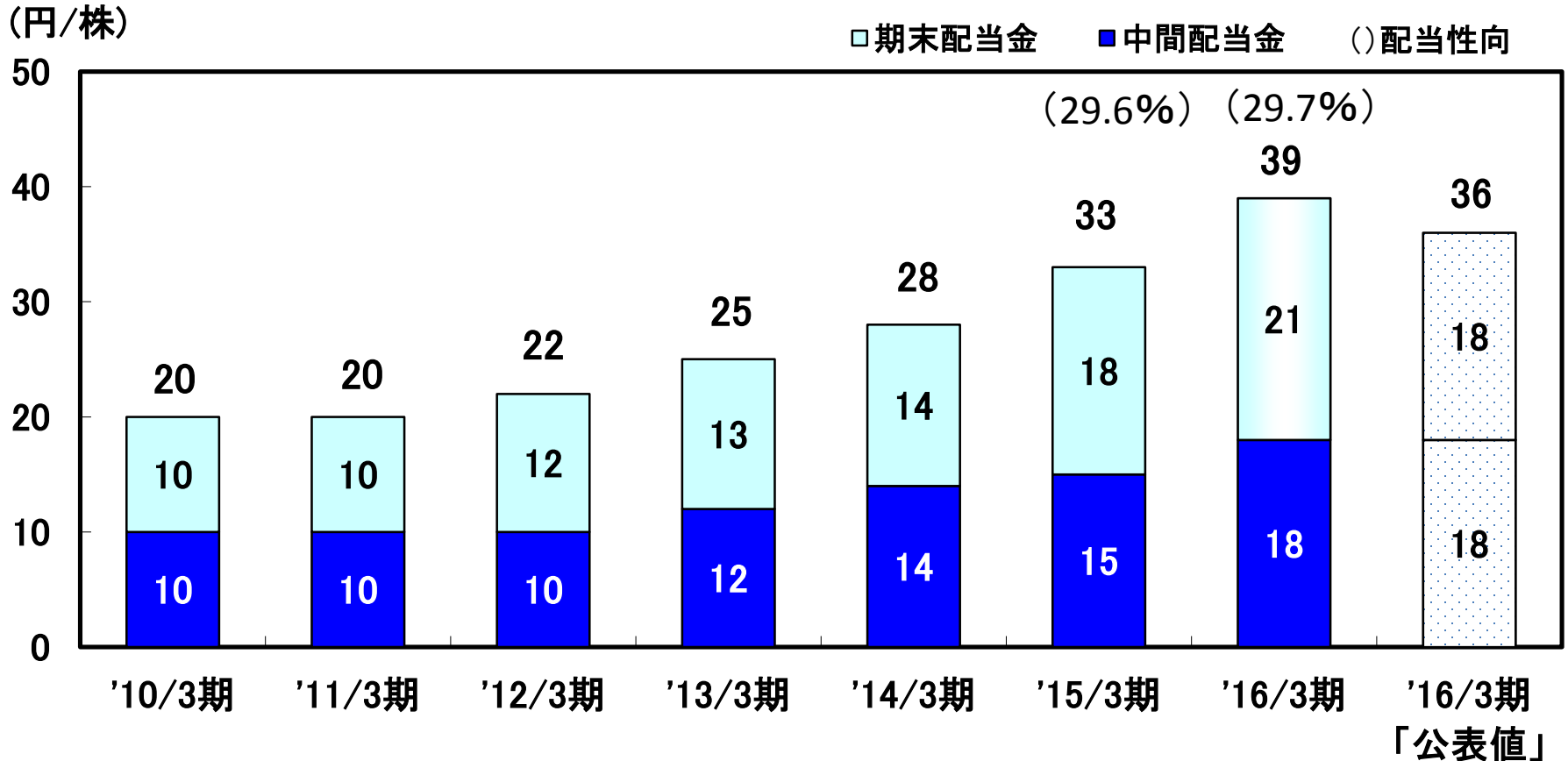
バキュームポンプ/ヘッドガスケット
量産開始

- ・中国子社YNG連結対象化
- ・「良品廉価(RR)ライン」導入・量産

海外全地域で売上増（前年同期実績比）

株主還元

1株当たり配当の推移



連結配当性向30%をベースに、長期安定的な配当を目指す

目次

1. 中期経営計画(2013-15)の振り返り
2. 2016年3月期 実績
- 3. 2017年3月期 予測**
4. 将来への取り組み
(VISION2020と新中期経営計画)

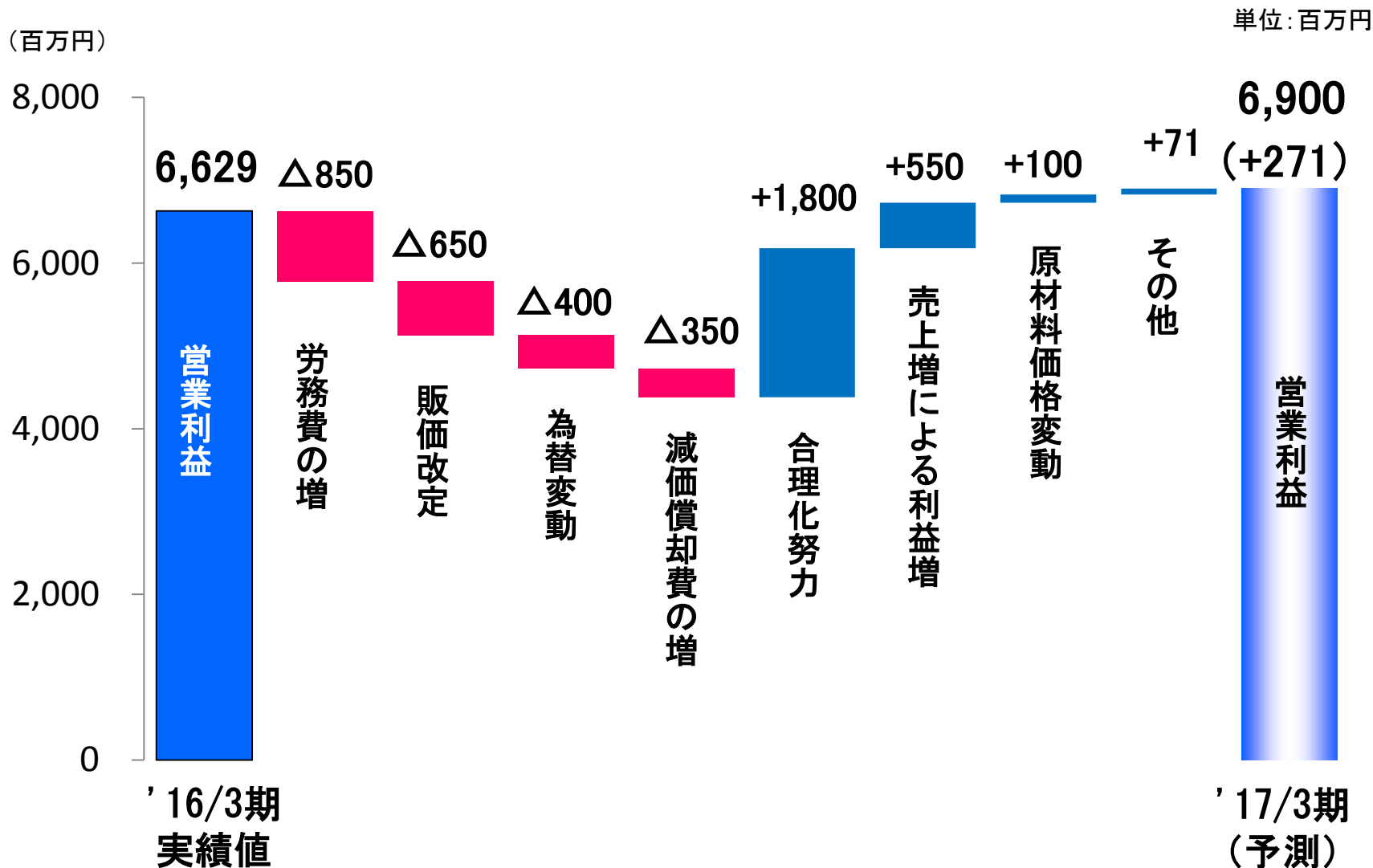
2017年3月期 通期業績予測 <連結>

単位:百万円

| | 2017年3月期予測 | 2016年3月期実績 | 増減値 | 増減率 |
|-------------------------|---------------------|---------------------|-------------------|------|
| 売上高 | 109,000 | 107,288 | 1,712 | 1.6% |
| 営業利益 | 6,900 | 6,629 | 271 | 4.1% |
| 経常利益 | 6,400 | 6,297 | 103 | 1.6% |
| 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 3,900 | 3,772 | 128 | 3.4% |
| 為替レート | 110円/ドル 125円/ユーロ | 119円/ドル 132円/ユーロ | △9円/ドル △7円/ユーロ | - |
| トヨタ 世界生産台数 | 905万台 | 893万台 | 12万台 | 1.3% |

売上高・利益共に過去最高、利益率向上を目指す

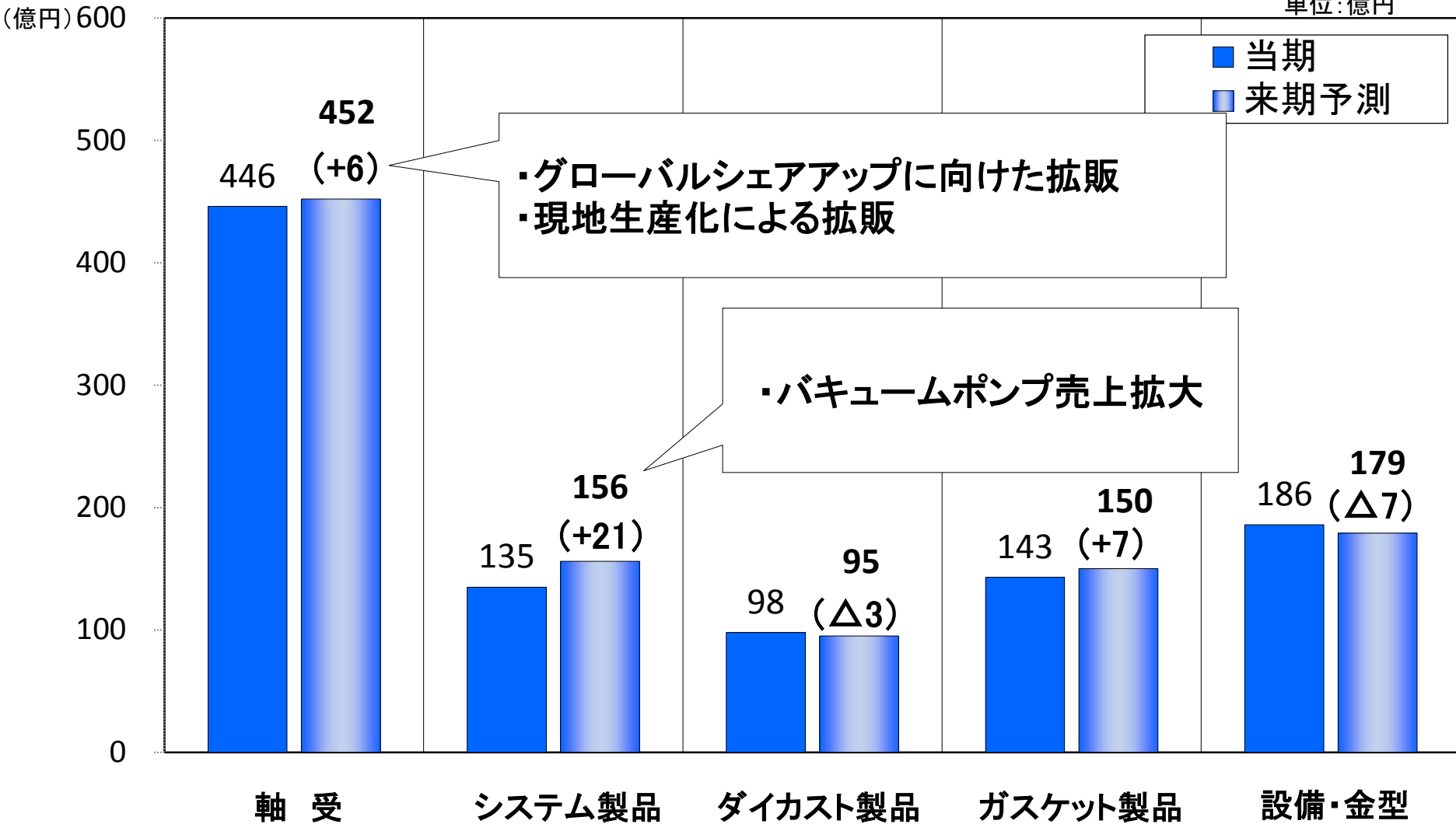
営業利益増減要因(次期予測比)



営業利益 271百万円の増

2017年3月期 製品別売上高予測 <連結>

単位:億円



軸受に加え、システム製品の拡販

目次

1. 中期経営計画(2013-15)の振り返り
2. 2016年3月期 実績
3. 2017年3月期 予測

4. 将来への取り組み

(VISION2020と新中期経営計画)

VISION2020 ～地球環境とお客様への貢献～

トライボロジーをコアに、軸受をはじめとした環境に貢献する製品を迅速に生み出し、グローバルにお客様へお届けする

VISIONを実現する人財

グループの持続的成長

地球環境に貢献する
イノベーション

グローバル供給を支える
製造・生産技術

2020年の世界

多様化するエネルギーと
広域化する環境課題

成長を続ける新興国と高度化する先進国、
自動車市場は1億台へ

発展途上国の人口増と先進国の高齢化、
生活環境の高度化につれ資源が枯渇

環境技術が進化し、
技術のモジュール化と大規模化が進展



中期経営方針 2016-2018年度

ゆるぎない 「信頼と技術」で グローバルに躍進

- 技術・品質・原価の徹底追求により、世界トップの競争力を持つ企業となる。
- 人財・組織づくりとリソースの最大活用により、グローバル基盤を更に強化する。

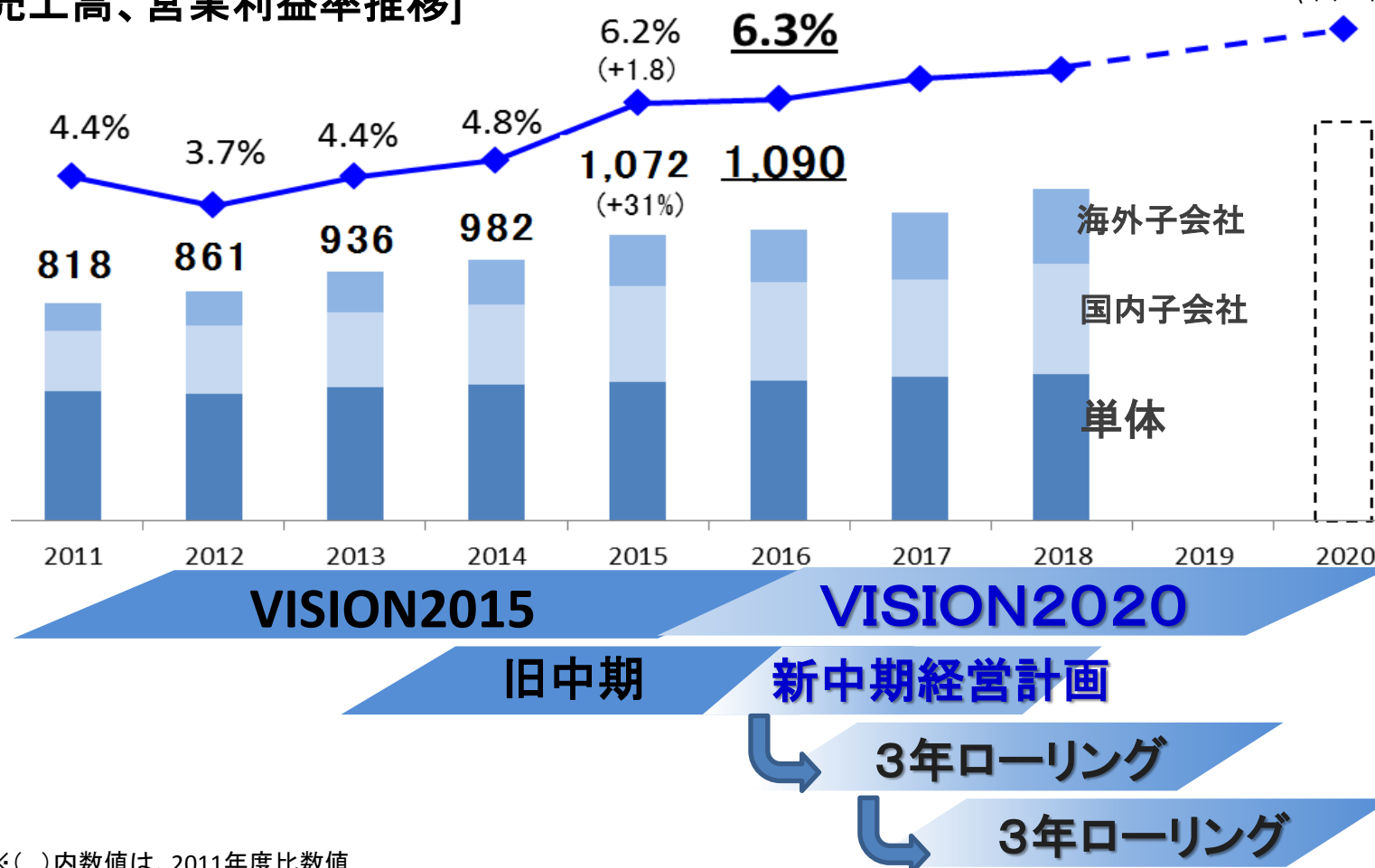
TAIHO

『VISION2020』と『新中期経営計画』の位置付け

2016年度に過去最高業績を達成し、以降、持続的成長を図りながら、収益力体質の強化を目指す

[売上高、営業利益率推移]

(単位:億円,%)



※()内数値は、2011年度比数値

各製品の方向性

| | | 製品 | 方向性 |
|--------|------|-----------|---|
| THグループ | 軸受 | エンジンベアリング | ・グローバルシェアUPに向けた更なる拡販の推進 |
| | | ブシュ、ワシャ | ・グローバル生産体制の確立、現地生産化による拡販の推進 |
| | | コンプレッサ用部品 | ・シュー、斜板を基軸としたグローバル展開と先を見据えた開発推進 |
| | 軸受以外 | ダイカスト製品 | ・新工法(回転鋳抜等)、設備コンパクト化等による原価低減を生かした拡販活動推進 |
| | | システム製品 | ・バキュームポンプのコスト低減とグローバル対応 ・大豊グループ現有技術を生かした将来技術への着手 |
| | | ガスケット | ・グローバル拡販強化 |
| | | 設備・金型 | ・大豊グループ一体活動による相乗効果の創出 |

エンジンベアリングの取り組み

エンジンベアリングの市場トレンド

[市場イメージと方向性]

市場動向

ハイグレードゾーン

- ・エンジンの小型化、高出力化

ボリュームゾーン

- ・グローバル化促進
- ・コスト競争激化

過去

現在

将来

方向性

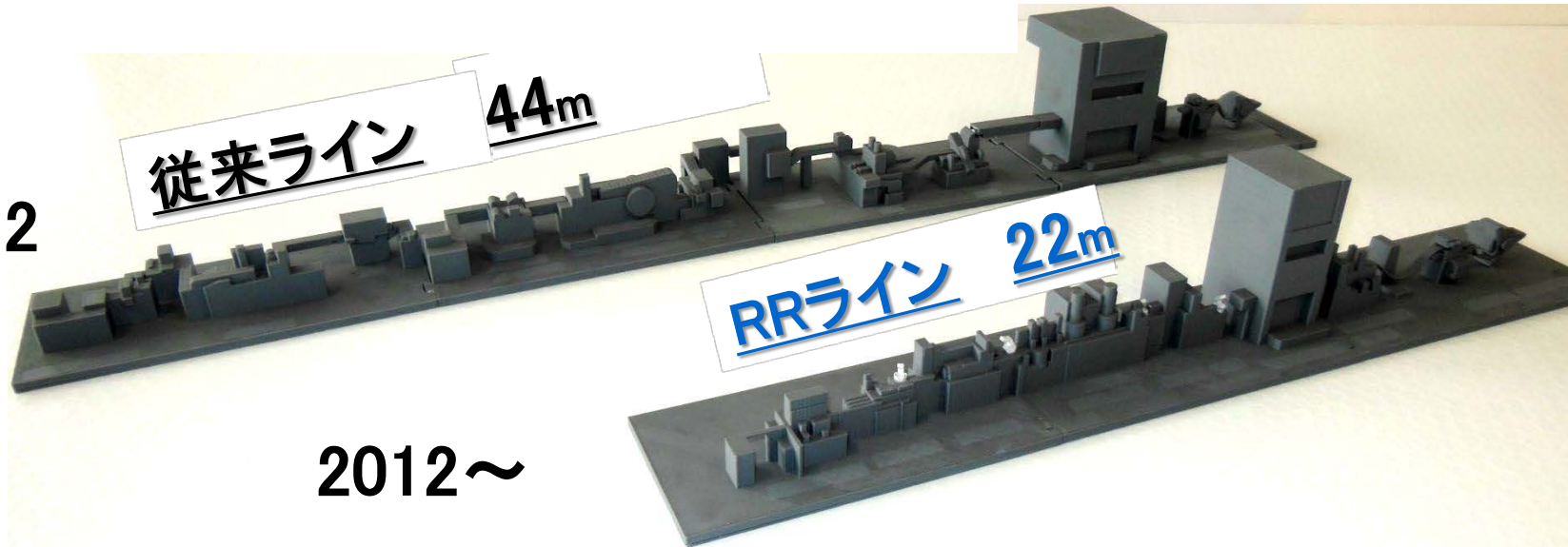
- ・技術力強化
(高い要求性能への対応)

- ・グローバル同一品質
- ・低コスト

市場環境を踏まえ、取り組む方向性を明確化

エンジンベアリングの原価低減への取り組み

~2012



2012~



国内:2ライン
海外:3ライン 展開中
→インドネシア:2ライン
→中国:1ライン



新中期

次世代
加工ライン

15m(Δ30%)

高効率な生産方式、
RRライン比 スペース: Δ30%

ハイグレードへの取り組み

軸受メーカーとしての技術力の更なる向上に向け、
材料、形状両面からの刷新に取り組む。

⇒ より高い性能、特殊スペック(材料、形状)への対応

[取り組みの観点]

- ・新材料(高強度アルミ等)への対応
- ・新設計への対応

細溝付軸受



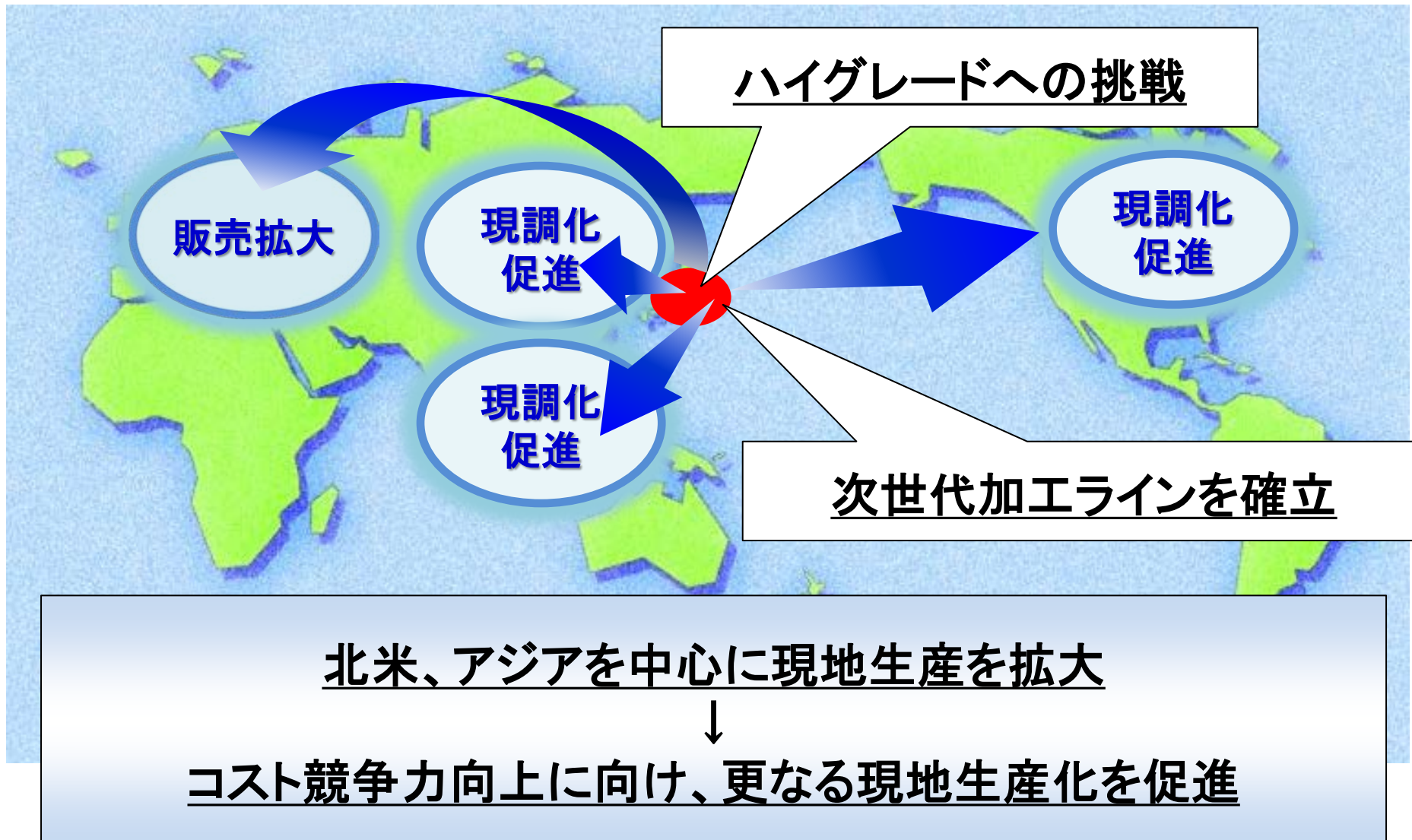
- ・工法刷新
～製品に合わせた最適な
造り方の追及

新たな研究・生技開発ライン
を構築 ⇒ 素材実証ライン

- ・スピーディな開発促進
- ・造り方の抜本的見直し

ハイグレードへの挑戦

将来に向けたグローバル展開



システム製品の取り組み

システム製品の取り巻く環境

[バキュームポンプ]

- ・TNGAを中心としたモジュール化

[自動車技術動向]

- ・燃費向上
- ・電動化ニーズ
- ・EV、FCV化

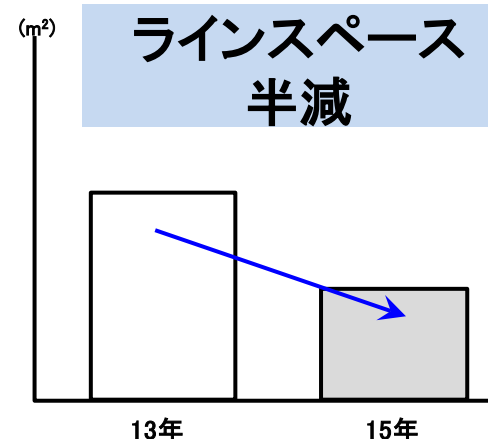
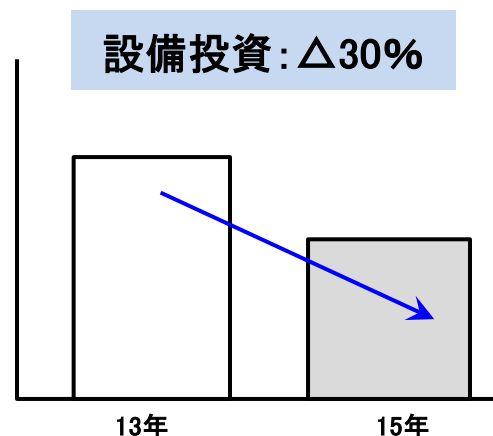
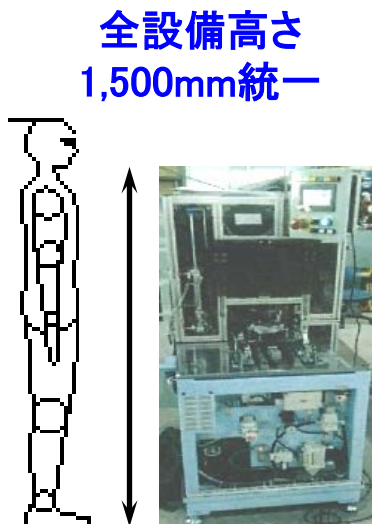
- ・バキュームポンプの競争力強化、グローバル化対応による更なる拡大
- ・自動車技術動向を踏まえた将来技術への着手（潤滑システム、FCV等）

バキュームポンプの競争力強化に向けた取り組み

グローバル展開を念頭においた設備コンセプト
⇒設備コンパクト化、金型・治具共通化による投資低減

【事例】バキュームポンプ組付設備のコンパクト化

共通仕様化、過剰機能の削減によりコンパクト化を実現



バキュームポンプのグローバル展開状況

■タイ 304新工場(TCT)
新工場建設('14年)、
バキュームポンプ現地生産開始
('15年~)



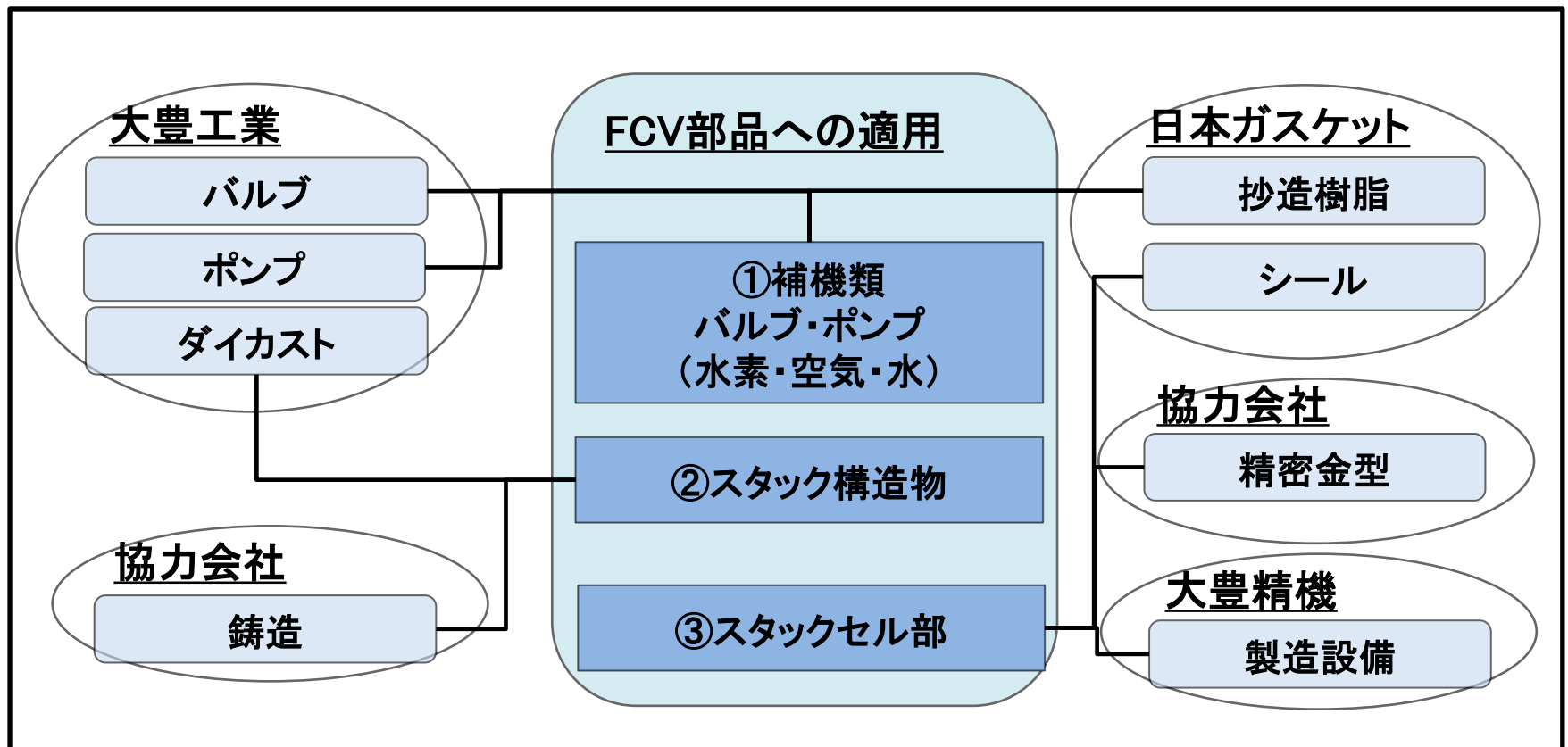
■北米(TCA)
現地生産開始予定
[組付]('17年~)



コア事業としてグローバル生産体制を確立し、
更なる拡販を目指す。

グループ力を結集し、新たな領域に挑戦

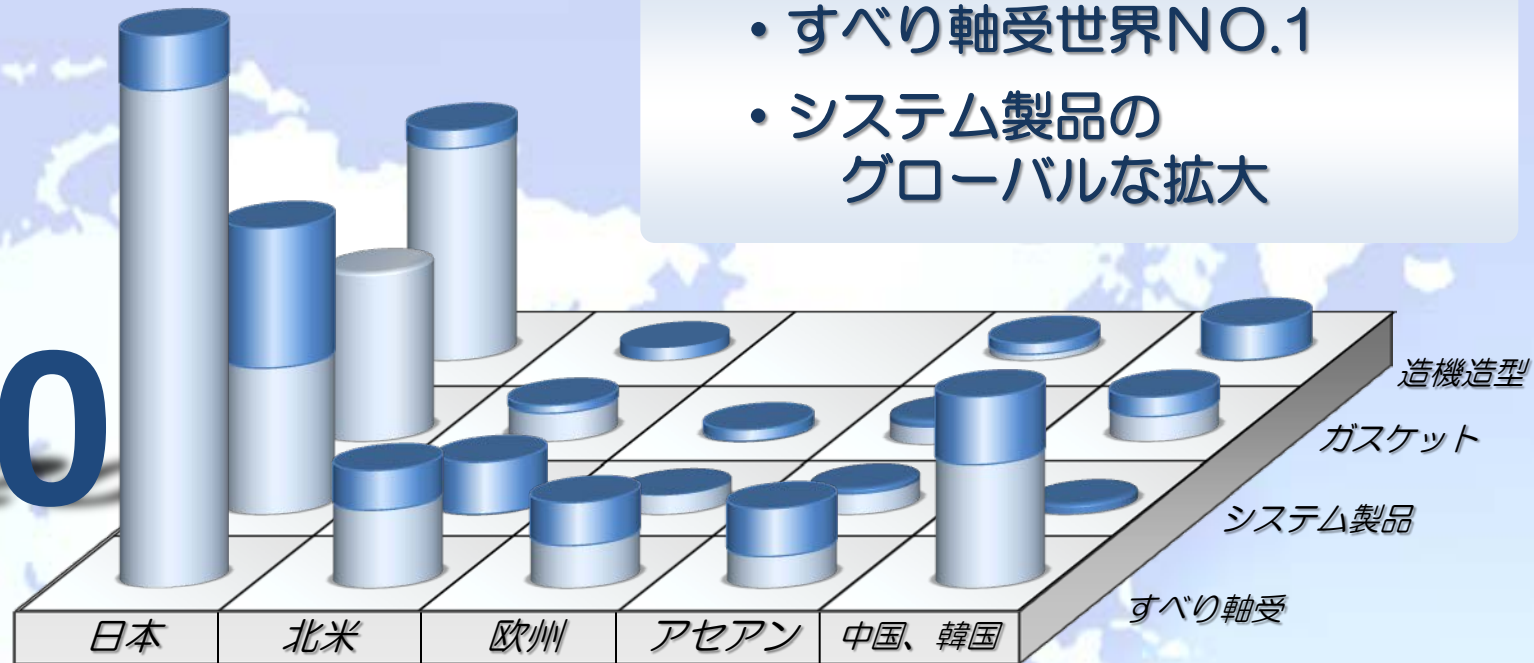
[大豊グループの保有技術とFCV部品への適用]



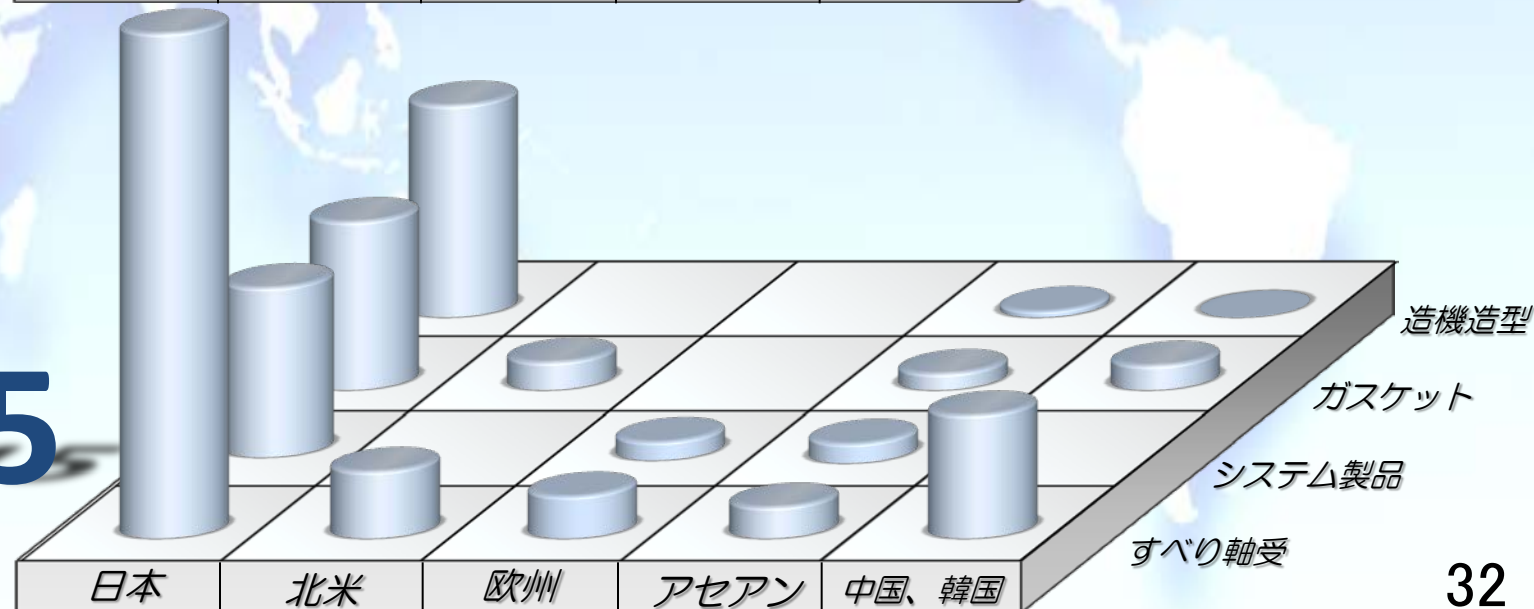
新製品をグローバルなお客様にお届けし、売上拡大を目指す

- すべり軸受世界NO.1
- システム製品のグローバルな拡大

2020



2015





中期経営方針 2016-2018年度

ゆるぎない 「信頼と技術」で グローバルに躍進

- 技術・品質・原価の徹底追求により、世界トップの競争力を持つ企業となる。
- 人財・組織づくりとリソースの最大活用により、グローバル基盤を更に強化する。

TAIHO

ご清聴ありがとうございました。

お問い合わせ先

大豊工業株式会社 総務人事部広報グループ
TEL 0565-28-2225(代表)